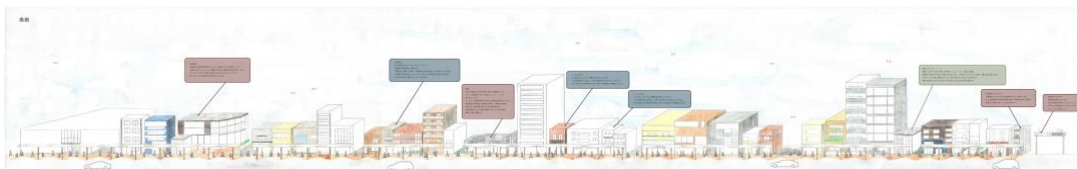


平野 令花

HIRANO Reika



板橋区不動通り再生計画

水彩、色鉛筆、模型、スチレンボード、木材、塩化ビニル樹脂

板橋区不動通り再生計画

自分の地元である板橋区不動通り商店街は店舗数が減少し、寂しい印象を持つ商店街に変化している。当初は不動通りを商店街として再生させようと考えていたが、板橋区の周辺環境、他の地域にある商店街を調査していく中で「今の不動通りにとって商店街を活性化させることが本当に必要なのだろうか」と考えるようになり、今ある店舗はそのまま残す一方、商店街とは異なる方法で歴史的資産、老人と子どもの空間、若者が板橋で生活・仕事ができる空間創出の3点を軸として不動通りを活性化させる計画を行なった。板橋区の昼間人口や、世代別人口、高齢化比率等を調べたところ、板橋区は昼間人口が少なく、高齢者の割合が高いことがわかった。そこで、生産年齢人口である若者が不動通りに住み、不動通りで働くことができる環境を作ることが出来れば不動通りは活性化していくのではないかと考えた。不動通りは中山道の最初の宿場町である板橋宿に位置している。しかし、現状では板橋宿の歴史や、中山道の歴史を知っている人は少ない。そこで、板橋宿、中山道の歴史を知ってもらうため、不動通り周辺に住んでいる子どもや、観光客に向けた歴史ツアーを企画し、地元へ愛着を持ってもらい、他の地域に住む人に板橋の歴史、魅力を感じてもらい、移住者を増やすことを目的とした。通りのデザインにも中山道の浮世絵や昔の板橋宿の写真から抽出した関所の門や日除けの屋根、街灯のデザインなどを取り入れた。

板橋区は、病院や小学校、中学校も多くあり、高齢者への支援、子育て支援に力を入れている。そこで、地域の歴史を通して子どもとお年寄りがコミュニケーションを取ることのできる福祉施設を作り、核家族化が進み、地域との関わりが薄れていく現代社会の課題を解決する。また、観光客向けの宿泊施設も新設する。板橋区の家賃は周辺の区よりも高く、1人暮らしをする学生や社会人は板橋区を選ばないと推測される。そのため若者が板橋で生活・仕事ができる空間として、家賃を抑えて住みやすいシェアハウスと貸店舗による働く場を提供することを提案した。